

★ 連 合 会 だ よ り ★

季節は秋へと移り、夜の帰宅時には秋の虫たちがちょっとした野外コンサートを催しています。

8月下旬から9月上旬にかけて、私は二つの国連に関する行事に注目していました。

一つは、FAO（国連食糧農業機関）のアジア・太平洋地域総会で8月28日～9月1日まで横浜市で開催されました。1995年の各国の食糧主権を否定するWTO（世界貿易機関）の発足と1996年のローマで開催された食糧サミットにおける「ローマ宣言」と行動計画について、その後、特に食糧サミット以降の食料状況等に関して熱く真剣な議論が交わされました。注目されたのは、NGOレベルの動きで「農産物貿易の自由化拡大がアジアの食糧安保を脅かしている」と警告を発していることです。

もう一つは、「21世紀の国連の役割」をテーマとして開催された国連ミレニアムサミットです。会議は、189の加盟国から150人以上の元首・首脳が参加をし、史上最大のサミットとなりました。「今日我々が直面する主たる課題は、グローバル化が世界のすべての人々にとって前向きな力となるのを確保することである。」（「ミレニアム宣言」）と指摘しています。このことが人類全体の幸福と一致していくことを強く希望し、会議の成果に注目しました。

さて、9月に入り、第21回全国総会で決定された課題について、本格的に推進していく段階となってきました。「新3カ年計画」と総括運動、地域福祉事業所構想の更なる前進と発展、労協法制定運動と新労協七つの原則の検討、重点課題だけでもより一層の努力が必要です。総括運動では、推進のために全組合員学習用のパンフレットも準備しました。多くの組合員の活用を

期待しているところです。このパンフレットは第21回総会議案をベースに、組合員の学習用として、改めて編集したものです。20年の歴史と到達点を踏まえ、今日の政策的な方向をわかりやすくまとめています。

地域福祉の展開では、介護保険スタート後全国で指定事業者として、介護・福祉事業に挑戦し善戦健闘しています。大都市・東京は、東京としての困難と可能性を抱え、地方都市は地方都市としての種々の状況を抱え、人口1万人の町や村ではその地域の条件を抱えながら進んでいます。しかし、労協・高齢協とも私たちが大切にしなければならない理念と目的を鮮明にすることで多くの支援者や主体者が生まれ、私たちの前に登場してきています。そして、新しい全国を励ます事実もどんどん生まれています。愛知では、高齢者事業団が母体となって複合型老人福祉施設「へいわ会館」（設置運営・社会福祉法人なごや平和福祉会）がオープンしました。通所介護・訪問介護・居宅支援事業の他、痴呆対応型共同生活介護事業（グループホーム）も行う施設として地元の皆さんの期待が高まっています。

こうした中、2年に一度開催される「協同」集会の準備が始まりました。これまでの集会の伝統を継承し、21世紀へ向かう新しい課題を模索する集会として成功させたいと思います。“仕事おこし新時代”の働き方と生き方・事業・法制を問う中で、市民参加型の公共事業への転換を考える集会として充実した内容にしたいと思います。未来の中の“生活と地域”を共に考えながら。

富田孝好（日本労協連事務局長）